

1 公立大学法人札幌市立大学の事業年度ごとの業務実績評価の方法

事業年度ごとの業務実績の評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

「項目別評価」は、各事業年度において、公立大学法人が作成した年度計画の次に掲げる事項（大項目）の進捗状況の評価を行う。

大学の教育研究等の質の向上

業務運営の改善及び効率化

財務内容の改善

教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供

その他業務運営

「項目別評価」に当たっては、まず、公立大学法人から提出された業務実績報告書（公立大学法人の業務実績や年度計画の達成状況に係る自己評価結果を記載したもの）等を検証し、年度計画の記載項目（小項目）ごとの事業の進捗状況について、次に掲げる ～ の4段階で評価を行う（小項目評価）。公立大学法人による自己評価と評価委員会の小項目評価が異なる場合は、その理由等を示す。

- ：年度計画を上回って実施している。
- ：年度計画を十分に実施している。
- ：年度計画を十分には実施していない。
- ：年度計画を実施していない。

の結果を基礎資料とし、「項目別評価」として、年度計画の大項目ごとに、事業の進捗状況について次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。

- S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
- A：計画どおり進捗している（小項目評価の結果がすべて 又は ）
- B：おおむね計画どおり進捗している（小項目評価の結果に係る 又は の割合が9割以上）
- C：やや遅れている（小項目評価の結果に係る 又は の割合が9割未満）
- D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）

「全体評価」は、「項目別評価」の結果等を踏まえ、年度計画の進捗状況全体について、総合的に評価を行う。

2 全体評価

総評

公立大学法人札幌市立大学は、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念として掲げるとともに、「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」と「まちづくり全体により大きな価値を生み出す「知と創造の拠点」の形成」を目的とし、平成18年4月に設立された。

設立初年度である平成18事業年度の業務実績の評価としては、まず、年度計画の大項目別に行う「項目別評価」の基礎資料となる「小項目評価」を行った。その結果、小項目数175項目のうち、2項目が 評価（年度計画を上回って実施している）、169項目が 評価（年度計画を十分に実施している）となっており、これらを合わせると、175項目中171項目（97.7%）が年度計画の水準を満たしていることを確認した。

この結果を踏まえ、「項目別評価」を行ったところ、すべての大項目について、A評価（計画どおり進捗している）又はB評価（おおむね計画どおり進捗している）となった（項目別評価の内容については、5ページ以下を参照）。

したがって、「項目別評価」の結果を踏まえると、平成18事業年度の業務実績の評価としては、全体として、行うべき事業を行い、順調に業務を遂行していると評価することができる。

年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイント

年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイントは、次のとおりである。

ア 大学の教育研究等の質の向上

(ア) 教育

デザイン学部と看護学部の学生を混在させた形で、フィールドワーク等を行う授業である「スタートアップ演習」を実施し、高い教育効果を上げ、両学部の教育上の連携を推進している。他の授業についても、予定のカリキュラムを着実に実施していると評価できる。

また、授業概要の学生への周知や成績評価基準・方法の明確化・学生への周知についても取組が進んでいる。

(イ) 研究

受託研究等による外部資金を23件、93,180千円獲得したが、これは、開学初年度であり、教員数も少ないことを考えると、評価できるものである。

また、研究におけるデザインと看護の連携については、両学部間の共同研究がまだ始まったばかりで、成果が出るところまではいっていないが、手応えがあり、今後が期待できる。

(ウ) 地域貢献

札幌市や札幌商工会議所から研究の委託を受けるなど、新設法人としてはまずまずのスタートで、学部の特徴を活かし多方面にわたっている。教育機能、産学官連携の窓口機能等を有するサテライトキャンパスも設置され、公開講座も開催している。今後は、公開講座等の広報を積極的に行い、参加人数を増やすとともに、中身の満足度もさらに上がるように取り組む必要がある。

イ 業務運営の改善及び効率化

理事長が戦略的に法人運営を行っていくための「公立大学法人札幌市立大学経営戦略」の策定、公立大学法人の運営に係る戦略の企画・立案を行う企画戦略室の設置など、理事長がリーダーシップを発揮しながら公立大学法人を運営する体制が整備されつつある。

ウ 財務内容の改善

外部資金を23件、93,180千円獲得し、財務内容の改善につなげた。

エ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供

「産学連携公開講座」等の公開講座を積極的に開催し、情報の提供に努めている。

オ その他業務運営

「札幌市立大学キャンパス・ハラスメント防止宣言」や「公立大学法人札幌市立大学研究倫理規程」を制定するなど、ハラスメント等の防止に取り組んでいる。

今後の課題

新設法人の初年度であることから、年度計画のほとんどが組織体制や諸規程の整備となっており、その点では特に遅れる項目もなく順調であるが、それらを整備するだけでなく、さらに実質面に踏み込んで当初の年度計画を遥かに上回るスピードと深化

で特段に推移している項目は、残念ながら見当たらない。今後は、教育、研究、地域貢献等の内容の深化を図る必要がある。

また、評価は対外的に認知される要素を含むものであり、マスコミ等に紹介されなくては伝わらないことも多いので、今後はこまめに広報媒体を活用することを勧めたい。

3 - 1 大学の教育研究等の質の向上に関する項目別評価

評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数110項目に対して、「年度計画を上回って実施している（評価）」又は「年度計画を十分に実施している（評価）」と評価した項目が109項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				又はの割合
	実施せず	十分実施せず	十分実施	上回って実施	
110	0	1	107	2	99%

特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ デザイン学部及び看護学部を混在させた学生をグループに分け、大学における学習方法の習得を目指した授業を始め、フィールドワーク、ワークショップ等を取り入れた特色ある授業である「スタートアップ演習」を実施し、初年度にもかかわらず、高い教育効果を上げ、さらに両学部の交流が活発に行われ、学部間の連携も計画以上の成果を上げた。
- ・ 文部科学省の科学研究費補助金を始め、国内外の競争的資金に関する情報収集を積極的に行い、収集した研究補助金や助成金に係る情報を全教職員に周知し、外部資金の導入による研究の促進を図った。その結果、初年度にもかかわらず、円山動物園などのプロジェクト型の受託研究を始め、合計23件、総額93,180千円の外部資金を獲得し、うち受託研究費は、平成18年度計画値の2倍以上の額を獲得するなど、学内の研究を促進した。

(イ) その他、次に掲げる点が注目される。

- ・ デザイン学部、看護学部それぞれが求める学生像を明確にしたアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)を策定し、学生募集要項に掲載するとともに、ホームページ上で公開したほか、オープンキャンパス、高校訪問及び進学相談会における大学説明会の際に、広く周知した。
- ・ 履修科目の過剰登録を防ぎ、それぞれの履修科目を十分に修得させるために、学生が1年間に履修科目として登録できる上限を設定した。
- ・ 「札幌市立大学学則」等で大学としての成績評価基準を定めるとともに、個々の授業科目における成績評価の方法は、この基準に基づき科目責任者が策定し、シラバス(授業概要)及びホームページで公開した。
- ・ 看護学部では学生の学習、進路、健康等にわたる学生生活全般をサポートするために、看護学部教員がメンター(助言者、教育者、後見人)となって、数人の学生を受け持ち、学生相談に応じる体制を整備し、各種相談に対応するとともに、面談を実施した。
- ・ 教員相互が研究テーマを発表することによって、教員相互の理解と学内の教育研究の活性化を図ることを目的に、両学部教員による研究交流会を実施した。
- ・ 理事長等の裁量により、重点的に取り組むべき研究に研究費を厚く配分する「学術奨励研究費」を創設した。
- ・ デザインと看護の連携研究推進のため、共同研究費に学部間共同研究費を創設した。
- ・ 一般市民を対象とした公開講座の開催等教育的な機能、民間企業との産学連携の窓口機能、生涯学習や看護師を始めとする職業人を対象としたリカレント教育の機能等を設けることを視野に入れたサテライトキャンパスを都心部に開設した。
- ・ 札幌市から、円山動物園について、「札幌市円山動物園の感性科学に基づく総合デザインの調査研究」を受託し、平成18年8月に発足した「円山動物園リスタート委員会」の委員長に理事長(学長)が委嘱され、本年3月の「円山動物園基本構想」の策定に貢献した。
- ・ 韓国大田市にある又松大学と大学間提携を調印した。この提携の中で、教職員及び学生の交流を推進することとしている。

イ 遅れている点

- ・ 学生による授業評価アンケートの結果を教員個人にフィードバックするのみにとどまっているが、それは最初の一步にすぎず、授業の内容及び方法の改善に役立てたという点について確認することができなかった。

評価委員会からの意見等

- ・ 入学生に対するアンケートについては、卒業時にも同様のアンケートを実施してパネルデータとして追跡できるようにすると入学時と卒業時の変化が把握でき、かつ、学生の評価も押さえることができる。
- ・ 「スタートアップ演習」については、学生相互の能力開発と同時に教員の連携が促進されたことが評価できる。
- ・ 授業評価の問題は、平成20年度よりファカルティ・ディベロップメント（教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組）に関する義務化が決定しているため、教員相互の授業見学のモデル的取組や授業評価の結果を学内の教職員及び学生に公開する手順について早急に詰める必要がある。
- ・ 授業評価アンケートについては、授業の向上に役立てるための、その利用法や結果のフォロー体制の整備などへ結び付けてほしい。
- ・ 看護学部はメンター制を導入しているが、それに比べ、デザイン学部の学生に対する支援は手薄である。分野による特色があってもよいが、デザイン学部もメンター制の導入を検討してはどうか。
- ・ 研究を推進する環境について、資金援助や資金配分面での制度化を図っていることは評価できるが、それ以外の支援体制の工夫がみられない。
- ・ 外部資金の獲得については、スタッフの数と開学初年度ということを考えると、優秀な実績となっている。全国の科学研究費補助金の取得ランキング等も参考にし、評価の位置付けをしておくことを勧めたい。
- ・ 受託研究及び研究費を積極的に獲得したことは評価できる。また、対応窓口としての担当組織を明確にしたことは評価できる。しかし、実際の研究推進のための人的・組織的支援体制の整備はまだ十分とはいえない。
- ・ 地域貢献については、平成19年度に、附属研究所として「地域連携研究センター」を設置したとのことなので、当該センターの体制を整備するとともに、積極的

に活用し、公立大学法人札幌市立大学の理念であり、目的でもある地域貢献を着実に進めてほしい。

- ・ 図書館について、今後は広報と市民への貸出しを推進してほしい。
- ・ 新設大学であることを踏まえ、委員会や学内分掌等に教職員の全員参加体制をとっていることは評価できる。

3 - 2 業務運営の改善及び効率化に関する項目別評価

評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数34項目に対して、「年度計画を十分に実施している（評価）」と評価した項目が32項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				又はの割合
	実施せず	十分実施せず	十分実施	上回って実施	
34	0	2	32	0	94%

特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 理事長が戦略的に公立大学法人の運営を行っていくため、特に重点的に推進していくべき目標を掲げた「公立大学法人札幌市立大学経営戦略」を策定した。
- ・ 理事長等を構成員とし、公立大学法人の運営に係る戦略の企画・立案を行う企画戦略室を設置した。
- ・ 公立大学法人の役員及び経営審議会・教育研究審議会の委員に外部の者を登用した。特に、経営審議会については、その構成員の半数を外部の者とした。
- ・ 「産学連携公開講座」等で、IT関連分野に係る最新情報を積極的に提供し、また、高齢者の転倒予防を目的とした「福祉工学デザイン講座」を開催するなど、大学の知識、技術等を積極的に情報提供し、教育研究の活性化や地域貢献に活用した。

- ・ 事務局業務の効率化・合理化を図るため、平成18年度当初から、給与及び旅費計算業務について、他大学において実績を有する民間事業者に対して、外部委託を行った。また、初年度より大学の専門的知識を要する事務について、大学事務経験者等を民間企業からの人材派遣により受け入れた。

イ 遅れている点

- ・ 平成19年度予算に係る予算編成方針が策定されなかった。
- ・ 証明書自動発行システムの検討が行われなかった。

評価委員会からの意見等

- ・ 理事長の学内事情の把握水準は高く、業務実績評価のために実施したヒアリングの段階でも十分なリーダーシップの能力が示されていた。
- ・ 対外的な交渉や地域貢献を一段と進めていく上では、職員のキャリアパスを重視した人材の養成が急がれる。
- ・ ファカルティ・ディベロップメントに比べ、スタッフ・ディベロップメント（事務職員や技術職員などを対象とした、管理運営や教育研究支援等の資質向上のための組織的な取組）が遅れている。プロパー職員の採用増と、スタッフの強化が望まれる。
- ・ 人件費は、費用項目中大きなウェイトを占めるので、費用対効果に配慮しつつ、業績等を反映した民間の人事・給与制度を参考に、新制度の確立についてスピードアップすべきである。

3 - 3 財務内容の改善に関する項目別評価

評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目に係る小項目評価においては、すべての小項目について、「年度計画を十分に実施している(評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考)小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				又はの割合
	実施せず	十分実施せず	十分実施	上回って実施	
13	0	0	13	0	100%

特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 受託研究を9件(研究費45,358千円) 研究助成を1件(助成額454千円) 寄附金を2件(寄附額16,000千円)受けた。なお、受託研究9件のうち、3件(研究費2,500千円)は、札幌市からのものである。
- ・ 事務局職員の配置に当たっては、庶務、人事・給与・勤務条件、経理、施設管理等芸術の森・桑園両キャンパスに係る法人全体の事務を芸術の森キャンパスに集約し、職員配置の適正化を行った。

イ 遅れている点

遅れている点は、特に認められない。

評価委員会からの意見等

- ・ 知的財産については、知的財産ポリシーの策定や関係諸規程の整備を行うとともに

に、当該ポリシー等に沿った運用を行い、教職員による職務発明等の知的財産を公立大学法人において権利化するなど、積極的に活用してほしい。

- ・ 外部資金の獲得状況は、法人設立初年度としては評価できるものであるが、今後教員が増加してくること、また、教育研究に係る資金について競争的なものが増加する傾向にあることから、外部資金獲得の取組をさらに強化してほしい。

3 - 4 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する項目別評価

評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目に係る小項目評価においては、すべての小項目について、「年度計画を十分に実施している(評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考)小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				又はの割合
	実施せず	十分実施せず	十分実施	上回って実施	
7	0	0	7	0	100%

特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 札幌市立大学の知を社会に還元するため、「産学連携公開講座」(5回)、「福祉工学デザイン講座」(2回)等の公開講座を開催した。
- ・ 個人情報保護に対する公立大学法人札幌市立大学の姿勢を明確にするため、札幌市個人情報保護条例に基づき、個人情報の取得、管理、利用、第三者への提供の制限、外部への委託、内部監査体制、開示請求等を規定した個人情報保護ポリシーを策定した。

イ 遅れている点

遅れている点は、特に認められない。

評価委員会からの意見等

- ・ 学校教育法において義務付けられている自己点検・評価を早急を実施することができるように取り組んでもらいたい。
- ・ 学生からの評価データに関する内容が十分とはいえず、教職員からの自己点検データの指標の検討も今後進めていく必要がある。
- ・ ホームページについて、魅力に乏しく工夫がなされていない。学生などの協力のもと見やすく関心をひきつける画面構成を考えていくことが期待される。加えて、ホームページを開くまでに時間がかかりすぎるので、必要な情報が確認できるようにし、画像の配置をピックアップしてアクセスするように工夫が必要である。

3 - 5 その他業務運営に関する項目別評価

評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数11項目に対して、「年度計画を十分に実施している（評価）」と評価された項目が10項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				又はの割合
	実施せず	十分実施せず	十分実施	上回って実施	
11	0	1	10	0	91%

特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において年度計画を上回って実施している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 公立大学法人札幌市立大学の教職員、学生等によるハラスメント等の人権侵害行為の防止等を定めた「札幌市立大学キャンパス・ハラスメント防止宣言」及び「公立大学法人札幌市立大学キャンパス・ハラスメント防止規程」を制定した。
- ・ 公立大学法人札幌市立大学における学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的として「公立大学法人札幌市立大学研究倫理規程」を制定するとともに、公立大学法人札幌市立大学が管理・運用を行う電子計算機資源の円滑かつ適正な利用を促進し、札幌市立大学の教育及び研究の充実を図ることを目的とした「公立大学法人札幌市立大学情報倫理規程」を制定した。

イ 遅れている点

- ・ 環境負荷軽減や省エネルギーの取組の効果について、確認ができなかった。

評価委員会からの意見等

- ・ 施設・設備の整備・活用に係るマネジメントサイクルの確立が中期目標として掲げられているが、それを実施するための具体的措置である年度計画では、保守・修繕等の維持管理に限定されており、中期目標の達成という観点からは懸念がある。年度計画の設定の妥当性に問題があると思われるので、中期目標を着実に達成するための具体的措置について検討するよう要望する。

また、中期計画に記載されている施設・設備の維持管理計画についても、早急に策定するよう、併せて要望する。